

第4章 コース実施による検証

第4章 コース実施による検証

第1節 コースの検証

今回の試行実施によって、「感覚技能」にはレベル毎でのステップがあり複数のコースが必要であることが明らかになったと考えられる。まずは自分の「感覚技能」の形成過程、次に周りを見渡し自分の「感覚技能」の補正、ステップを踏むごとにその時点では分からなかったものが見えてくる。

コースシリーズ全体としても、受講生のレベルとしては、自分なりの加工のスタイルを持っている者が適切であるといえる。会社によっていろいろ異なる作業スタイルがあるが自己のスタイルとの比較を行い実習を進めることが「感覚技能」コースを受けたことによる効果がさらにあがると考えられる。

本シリーズ（「満点追求」「感覚技能」コース）の特徴として、最初に技能チェック、最後に課題作成を行いコースでの習得状況を捉えた。この手法により、現在の受講生の能力の技術・技能的にできる部分、不確かな部分、できない部分と明確にすることができた。それを意識して、コースに臨み受講生ごと目標を持ちコース内容を習得していくことができた。

最初の課題作成では、職場との環境の違いや異なる機械の使用で充分力を出せない受講生もいたが、できることを一所懸命行い完成を目指していた。

最後の課題作成では、コースから学んだものと合わせ受講生自身、自分が何処までできるのかという気持ちで、チャレンジ心がみなぎり実習に真剣さが感じられた。課題作成後には、受講生は充分な手応えをつかんでいた。

コースの最後の総括での受講者の感想は、「いままでの作業での悪い点がどこであったかがよく分かった。」「作業を行うに当たり今まで気にして無かった部分がいかに大事かということが分かった。」「自分に自信がつき今以上に加工に取り組むことができそうである。」「作業方法を追求し実践するという厳しいコースで勉強になった。」「会社の先輩から、今回のような内容を教えてもらう事はなかったので、大変勉強になった。」というものであった。

受講者側から捉えたコースとしての成果は、

- ・いままでの技術・技能の見直しが行えた点
- ・実習によりを実践・習得できたという点
- ・会社では、習得できない技能要素を習得できた点
- ・熟練技能者の技能を見ることができた点。

- ・自分の力を100%出し、課題実習をやり遂げ自信を付けた点としてまとめることができる。

第2節 感覚技能の指導技法

感覚技能の指導方法は、指導項目ごとに基本的に次の流れになる。

- ①自己の技能レベルの確認（本コースでは初日に一括でチェック）
- ②技能ポイントの解説（設定課題による提示）
- ③設定課題の製作（複数回・時間測定・寸法測定）
- ④指導・確認（設定課題の評価・自己の習得内容の確認）

まず①として技能レベルの確認を行う。実際に設定された課題を作成してみる。今回のコースでは、初日にチェック課題により問題点を明らかにしている。対象者を技能検定2級レベルにしているため基本的な操作からの指導ではない。自分の作業スタイルで課題製作を行い、技能の洗い出しをすることとなる。これは、受講者自身がこれまでのやり方を見直す機会と捉えても良い。ここで多くの要素を一度に確認する課題設定であると、受講者ごとの製作時間にかきができるので、単一要素の課題を指導項目ごとに準備するのが良いと思われる。

②としては、指導項目での受講者に新たな技能・ノウハウを提供するため①で確認されたレベルに合わせ、その時の受講者に合わせた指導内容を決定し指導員による技能提示を効果的に入れることになる。指導内容の決定については、事前準備した内容からどのレベルを開始点とするかの判断になる。高度熟練技能者を講師に招き、「カンコツ」の技能提示ができる方が良い。

③は、受講生ごとの実習による確認である。時間をかけ納得いく実習ができるよう十分な時間を設定できれば良い。実習の仕上げには時間設定、寸法精度を設定しトライできると受講者自身もその効果が確認でき、自信へとつながる。

④にて、問題点の整理、受講者自身の自覚、また次のステップへの助言ができる方が良い。

第3節 「感覚技能」コースと「満点追求」コースの関連

当研究センターにおいては、今回実施した「感覚技能」コース以外に、前年度「満点追求」コースの実施検討も行った。先行研究「OJTによる能力開発に関する研究」にて調査した熟練技能要素のカンコツについて分析し、その要素を習得技能要素としてまとめて

いる。それらを基に「満点追求」コース「感覚技能」コースの指導項目が作成されている。参考資料に、それぞれのコースのカリキュラムを掲載している。

コースの受講順序としては、「感覚技能」コースを受けた後、「満点追求」コースに進むように想定し作成している。「感覚技能」コースにより各自が作業スタイルを確立し「満点追求」コースによってさらなる完璧を目指すよう進める。

第4節 今後のコース展開

フライス加工高度熟練技能を目指す「感覚技能」コースは試行実施を通して、その有効性が確認でき改善点も明らかにできた。今後は、このコースを広く実施し、熟練技能者養成に生かしていくこととなる。また、このコースは高度熟練技能者の外部講師によるコース展開に当たり、その手法は非常に有効であると考えられる。

実際にこのコースを行うためには、「感覚技能」の指導ができるだけの高度熟練技能保有の指導者を必要とする。

さらに、コースで得られた訓練技法、及びその要素を従来のコースに反映し、いままでのコースに更なる実践力を付加することが出来る。また、機械加工系のセミナーだけでなく、他分野についても展開が可能である。